

YAH!



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

9月は『日日草』

Vol.28 2021.09.10 えんじよい工房・『YAH!』編集室

上目遣いで強面とは

言質を取られるから、決して明確なことは言わない。それでいて、時に批判されると激高してみせたりする。反論はしないが、とにかくはぐらかし、譲ることをしない、主張もしないくせに、人の意見については頑なに拒み続ける。言い方は柔らかいが、あくまでも上から目線の態度を崩さずというのでは、発せられた言葉は飛沫にすらならず、むなしく消え去り、聞く側としては何も響いてこない。納得も反発もしようがない。つまりはそれが狙いなのかもしれないが、実に歴史的にみても類を見ないタイプで、思わず誰でもいいから他に人はいないか：なんて思ってしまうのだが、それどころ吹く風なのだろう。そういう人にだけはなりたくないし、できれば出会いたくもないところだが、現実として居る。嫌でも付き合わざるを得ない。とすれば、機会はきつとある：次の機会に、現状を忘れず、目をつぶることなく、こちら側としての意志表示をしっかりとしたいものだと思えばかりである。

「こんな映画を観てきた」 ジョーイ

スポーツ、子供、そして病気：これだけそろえば泣かすにはすまされない！そんな「卑怯な」映画である。十一歳の末っ子ジョーイ（ジェフリー・ライナス）が、白血病で余命数カ月だという。兄のジョン（マーク・シンガー）や家族にあたたかく見守られる中、ジョーイは少しづつではあるが、一旦は回復にむかう。ジョンの試合にも行けるようになったジョーイは、ジョンに誕生日のプレゼントをねだる。「1試合に4つのタッチダウン」とジョーイ。ジョンは何かに憑かれたように走り、その年のハインズマン・トロフィー受賞者に。そしてニューヨークでの受賞式で彼は言う「僕が戦うのはフットボールの時だけです。しかし、弟のジョーイは不治の病いと戦っています。このトロフィーはジョーイが受けとるべきです」と。

それから三年後、ジョーイは静かに亡くなった。



『ジョーイ』-1977・米-
SOMETHING FOR JOEY
監督：ルー・アントニオ



昭和の“沁みる”唄

『人を恋うる唄』

作詞 たか たかし
作曲 岡 千秋
唄 森 進一

露地にこぼれた
酒場の灯り
しみてせつない
放浪(なが)れ唄
おまえがそこにいるならば
リラの花咲く町もいい
汽笛聞こえる港(まち)もいい

実話らしいが、悲劇を悲劇に終わらせず、大いなる？感動の結末に誘う、いかにもアメリカ的な筋書だと言っていだらう。封切り当時、新宿駅東口の新宿武蔵野館で観た。割合女性客の多い作品を懸けることの多い映画館だったと記憶しているが、その折も終了後、目に一杯涙を溜めた(泣きはらした)男が一人、明るいエレベーターで若い女性に囲まれて一階にのりるのがなんとも恥ずかしかった：